

LCA等の評価手法に対する議論

データ収集の前提条件

- ・高炉、コークス炉は、炉の稼働状況によって、還元効果などが大きく異なる状況であるため、実態に即したデータを採用すべきである。
- ・材料リサイクルとケミカルリサイクルとの稼働率を同じ前提でデータを収集する必要がある。
- ・樹脂の品質によるバージン樹脂との代替率の定義を明確にする必要がある。

評価方法について

- ・LCAでは評価できない資源循環利用率も評価手法に加えるべき。
- ・手法間比較は、実際に排出している二酸化炭素排出量で評価すべき。
- ・材料リサイクルは、製品のバスケット法で評価すべき。

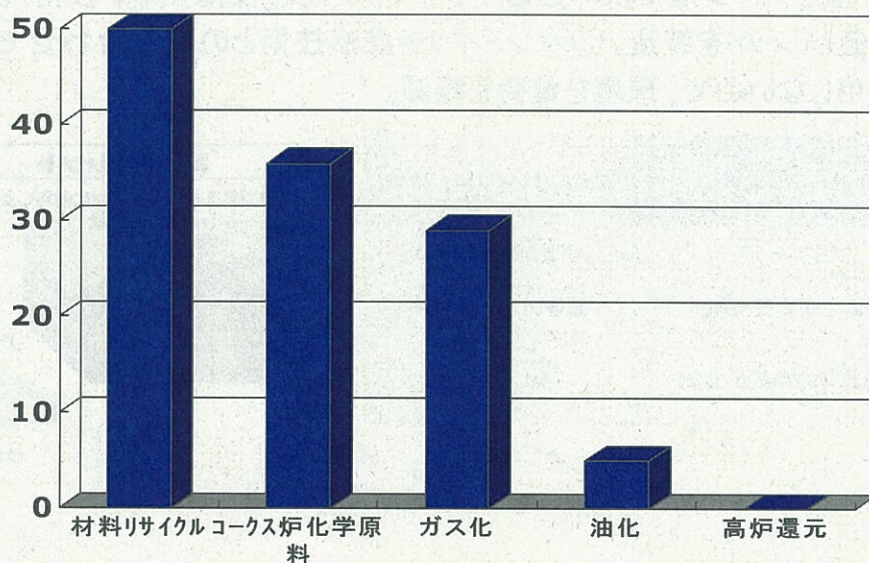
21

高度マテリアルリサイクル推進協議会

LCA等の評価手法に対する議論

素材循環利用率

素材循環という視点から考えると材料リサイクルが最も高い利用率であり、PO率が向上することで、更に利用率が高くなるポテンシャルがある。



(出典：容器包装リサイクル再商品化手法検討委員会資料より作成)

22

高度マテリアルリサイクル推進協議会

容器包装リサイクル制度への要望

製品プラスチックの回収促進

・製品プラスチックは、容器包装プラスチックの1/10程度の量であるため、消費者にとっては、製品プラスチックも含め、プラスチックのリサイクルを推進し、温暖化防止に活かすという説明の方がわかりやすい。

適正処理コストの負担

・B枠の競争率が高いため、通常の事業者では落札できる状況にはなっていない。極端に安い落札については、下限値をもうけるなど、適正なコストを負担される仕組み作りが必要。

総合評価制度における評価

・落札に失敗した事業者でも、過去に契約していた事業者は、過去のデータで評価されるなど、総合評価制度において評価されるようにしてほしい。
・総合評価の結果により、落札量が20%以上差がでる制度にしてほしい。

23

高度マテリアルリサイクル推進協議会

再商品化利用事業者(自社利用)としての意見

加工技術

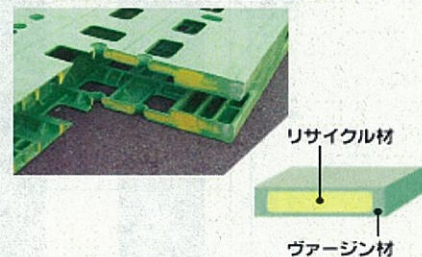
・サンドイッチ成形技術

概要:①コア層をスキン層で挟み込むサンドイッチ成形技術(MMP技術)を採用し、高付加価値パレットを製造。②サンドイッチ成形技術との組み合わせで乾式方式で水を使用しないので、環境を負荷を軽減。

項目	MMPパレット	従来のリサイクルパレット
寸法	寸法が一定	寸法が安定しない
色	表面色が変更可能	黒等の濃い色のみ
臭気	廃棄物特有の臭気が出ない	臭いがある

MMPパレット

廃棄プラスチックを芯材に使用したパレット



24

高度マテリアルリサイクル推進協議会